

・概況

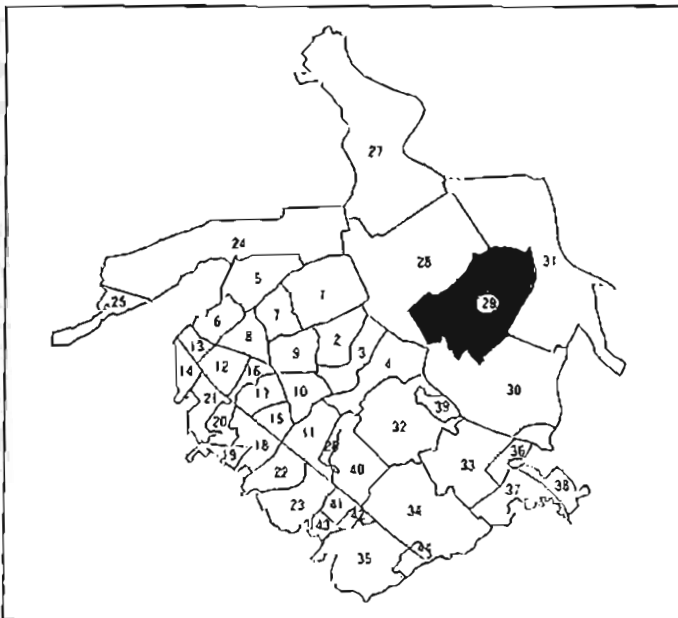
南畑第3町会は、富士見市の北東部に位置し、北側の小高い所（自然堤防）、西側の新河岸川の左岸沿いにある小高い所（自然堤防）の集落と、東側の荒川に面した水田地帯（氾濫平野）で形成されている。

環境は、田園に囲まれた良好な地域である。町会の西部には興禅寺、氷川神社、中央部には難波田氏館跡（県指定）がある。

外水災害は、近年、発生していない。水害は、水害履歴から灌漑用水路からの溢水により、水田・畑が冠水、浸水の被害を受ける内水災害が予想される。

地震災害は、軟弱地盤のため、小高い所（自然堤防）の木造建物の倒壊、水田地帯で液状化による被害が予想される。

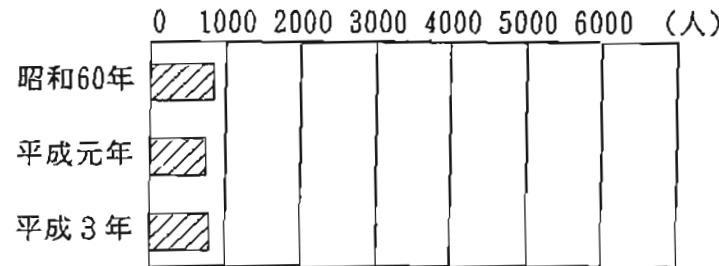
・位置図



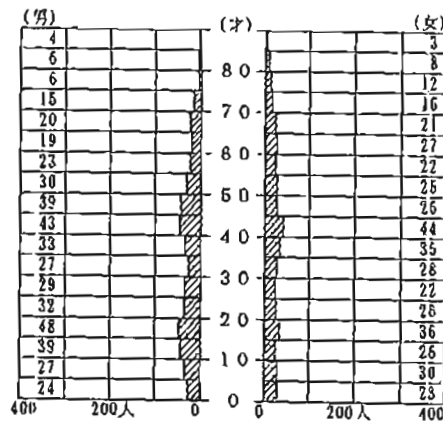
1. 基礎指標

・面積	1.148 km <sup>2</sup>
・人口(平成3年10月1日現在)	男 376人 女 365人 計 741人
・人口密度	645.5人/km <sup>2</sup>
・寝たきり老人数	5人
・ひとり暮らし老人数	3人
・世帯数	184世帯

・人口推移

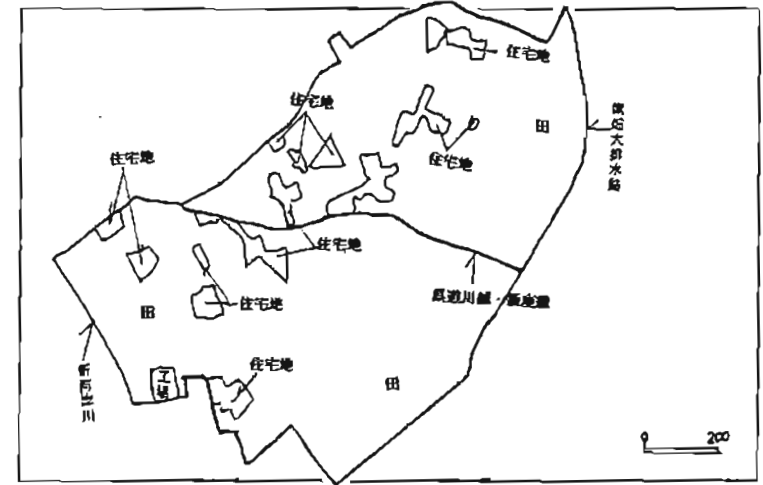


・年齢別人口(平成3年)

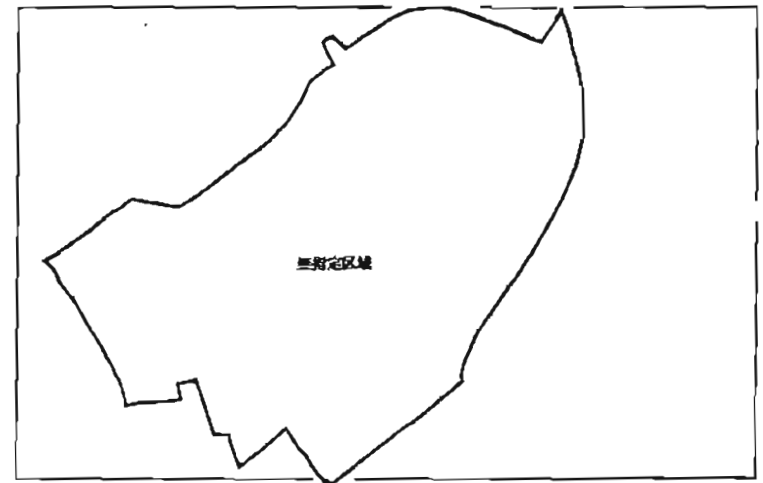


・商住工混在率住居系	90.3%
・店舗系	1.1%
・工業系	8.6%

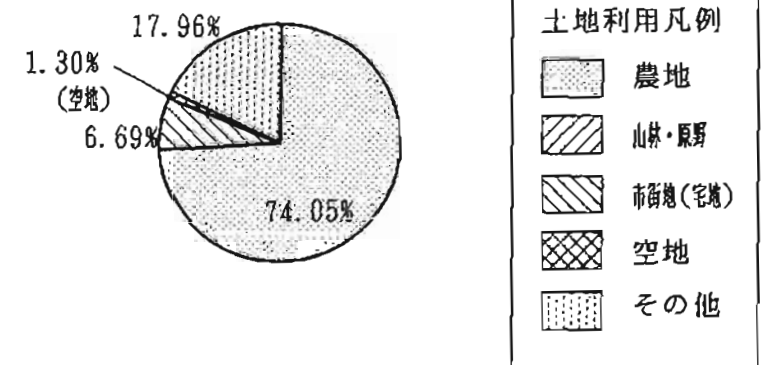
・町会現況図



・用途地域図



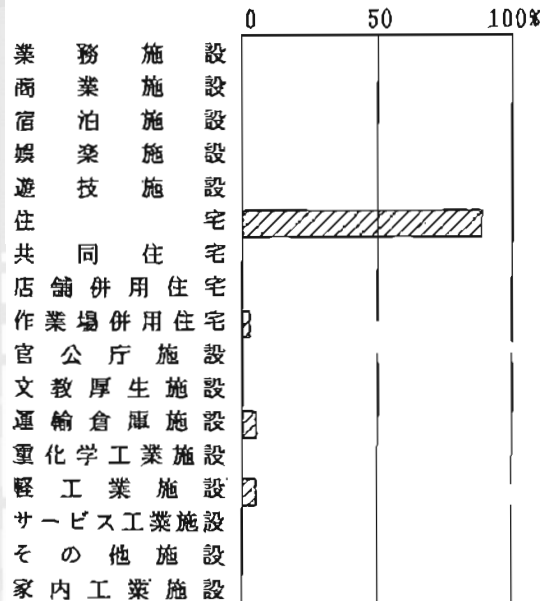
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	436棟	
・木造建物	383棟	
・非木造建物	53棟	
・建物面積	26,436.28㎡	
・木造建物	21,060.44㎡	
・非木造建物	5,375.84㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	87.8%	
・木造率	87.8% (383棟)	
・昭和34年以前の木造家屋棟数	108棟	
・同上率	28.2%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	263棟	68.7%
2階以上	120棟	31.3%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	36本	31.4本/㎞
・幹線道路率	4本	3.5本/㎞
・公共空地面積	9,498.3㎡	
・公共空地率	0.8%	
・1人あたり公共空地	12.8㎡/人	

・公共空地内容(\*指定避難所)

名称	面積
1. 高校	0㎡
2. 中学校	0㎡
3. 小学校	0㎡
4. 公園	0㎡
5. 八幡神社*	1,972.2㎡
6. 廣禪寺*	6,087.8㎡
7. 米川神社*	1,438.3㎡

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
-------	--

・消火栓本数	11本
・1消火栓あたり世帯数	16.7世帯/本

・消防水利貯水施設数	2 (0) か所
( ) 内は容量40トン以上の施設数	

・消防団機械器具置場	富士見市消防団第6分団
------------	-------------

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・ <u>屋外</u> (タンク)貯蔵所	1か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(値18号)	71棟	0棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所

・崖崩れ被害 ( 年 ~ 年)	0件
・火災出火件数 ( 年 ~ 年)	0件

・1923関東大地震被害	
家屋全壊	0戸
家屋半壊	0戸
被害率	0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	

・自主防災組織(数)	0
・自主防災組織参加世帯率	0%
・飲用井戸本数	0本

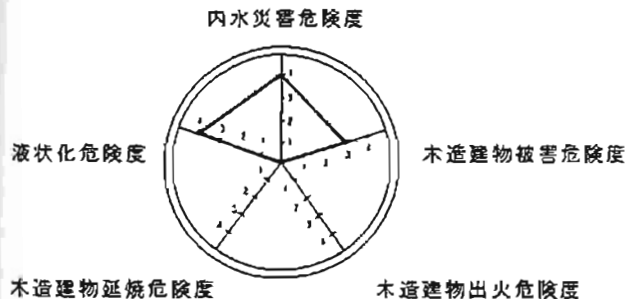
8. 危険度評価

・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	1ランク
・土砂災害危険度	2ランク
・木造建物被害危険度	3ランク
・木造建物出火危険度	0ランク
・木造建物延焼危険度	0ランク

地盤危険度	地盤の地震動危険度	4ランク
危険度	液状化危険度	4ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



9. 地盤条件

地盤は、10～30mの沖積層の軟弱地盤のため、小高い所（自然堤防）にある集落で震度6（-）（烈震の弱い方）、水田地帯（氾濫平野）で震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

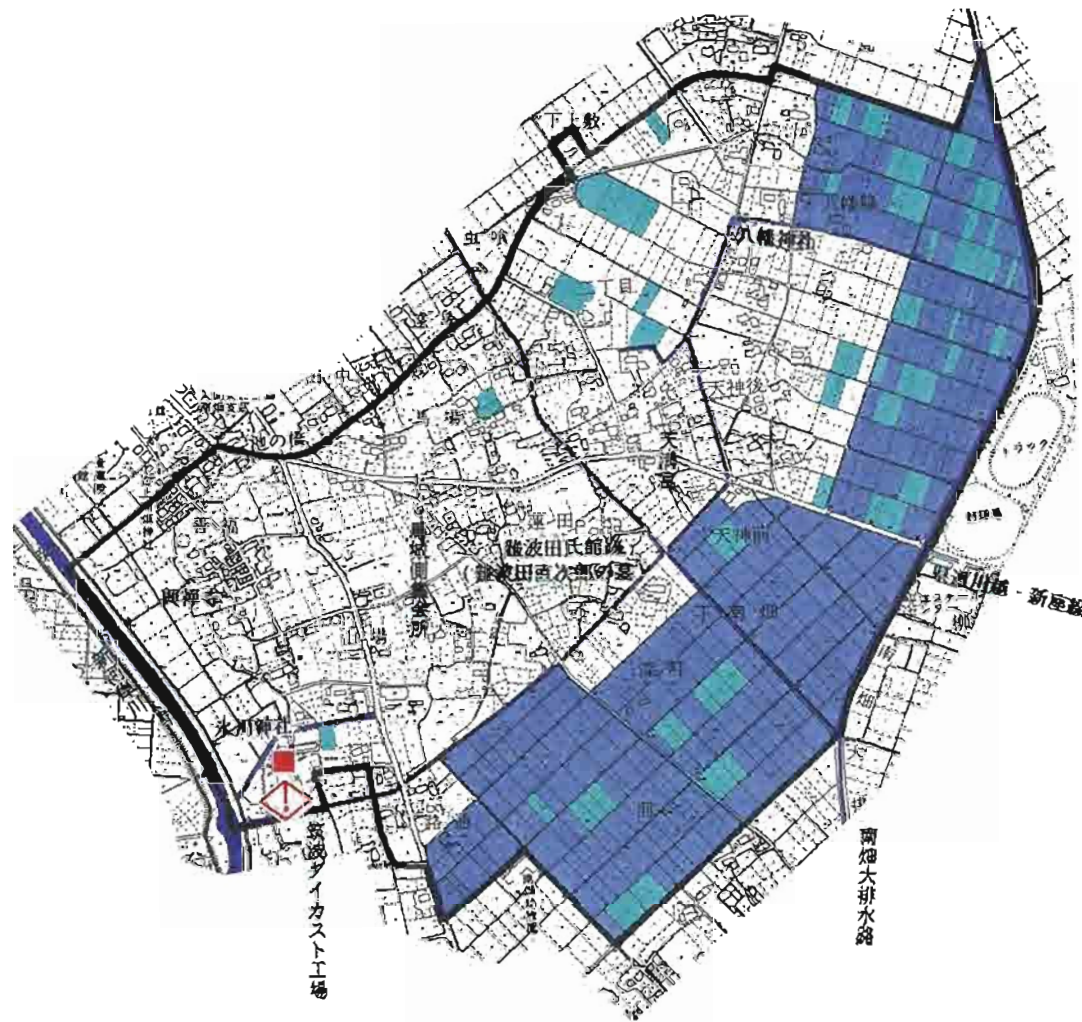
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	灌漑用水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は、設置されていない。
2. 外水災害	少ない。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため、木造建物の倒壊に注意を要する。	3. 消防能力	消防水利貯水施設数が2か所と少ないため、消防能力は低い。
4. 出火危険	出火の危険性は低い。	4. 防火能力	集落の木造家屋の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が100%と高いため、延焼の危険性は無い。	5. 避難収容力	南畑小学校のほか、八幡神社、興禅寺、水川神社（民有地）が指定避難所になっている。1人あたりの公共空地は12.8㎡/人と見込まれるためには収容力は十分と思われる。
6. その他の災害	地盤条件が悪いため水田地帯で液状化の被害が予想される。		

11. 解決の方向性

内水災害の予防対策は、灌漑用水路からの溢水を防止するため、主要な灌漑用水路に水防施設の設置が望ましい。地震災害の危険性は、液状化が予想される水田地帯で大きい。水田作業以外の用途で使用している建物は、建物のまわりの地中に連続壁や矢板などを設けて、液状化から建物の被害を防ぐ対策が望まれる。避難可能な道路沿いの転倒、または倒壊の恐れのある危険物は、転倒、倒壊防止の対策指導を行い、災害時にこれら危険物の転倒倒壊による道路の狭隘化を予防することが望ましい。

※ 想定震度 6（+）（烈震(強)）

防災現況図A(災害発生要因)



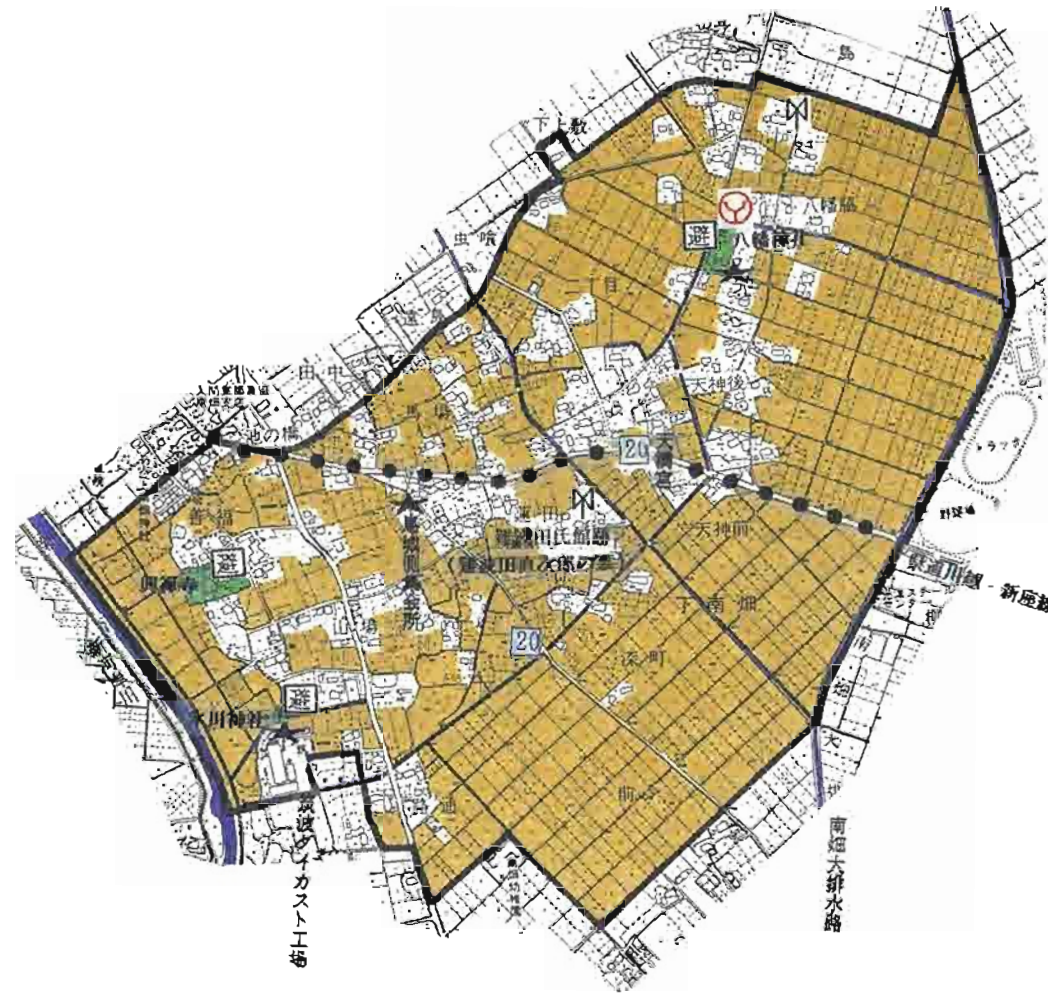
凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
□	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
■	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域





防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水 防 施 設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休 日 診 療 所
	指 定 避 難 所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

